

# 大学入試のあり方に関する検討会議への提言

2020年6月5日  
株式会社ナガセ  
社長 永瀬昭幸

# 0. ご紹介



## <沿革>

- 1976年 株式会社ナガセ 創業
- 1985年 「東進ハイスクール」創設
- 2006年 四谷大塚グループ入り
- 2008年 イトマンスイミングスクールグループ入り
- 2014年 早稲田塾グループ入り



現役高校生での  
日本一の合格実績



東大現役合格802名  
現役生占有率38.2%



日本一のAO推薦  
合格実績



日本一のコンテンツ  
予習シリーズ



全国統一小学生テストを実施



日本一の競技実績  
日本一の生徒数



10大会・延べ38名の  
オリンピックを輩出

教育理念=「**独立自尊の社会・世界に貢献する人財を育成する**」  
未来の日本・世界を担うリーダーの指導・育成に取り組んでおり、  
年間約5万人の現役高校生を大学に送り出しています

# 1. 提言

## 教育とは

生徒が20年・30年後に社会・世界でそれぞれの可能性を  
最大限発揮して大活躍するために必要な力を育むもの

将来の日本を発展させていくため  
国家繁栄の礎をつくること

では世界で活躍するための素養を  
どのようにして大学入試において高めるか

ご提案したいことは多々ありますが  
本日はその中から1つに絞って  
お話しさせていただきたいと思えます

# 1. 提言

## 提言

### 大学入試センターが 英語4技能試験を作成・実施する

2021年1月から大学入学共通テストを開始  
2025年1月から新課程を踏まえた大学入学共通テストを開始



2025年1月から統一の英語4技能試験開始を目指す

特に実施の難しい英語のスピーキング試験は  
さらに4年後からの開始を目指すなど段階を経て4技能試験を実現する  
(最初から完璧な試験をつくるのではなく小さく生んで大きく育てる)

## 2-1. 共通一次・センター試験の功績

共通一次・センター試験は大学入試について  
事実上の標準化を果たすことができたという大きな功績がある

1979年共通第一次学力試験→1990年大学入試センター試験→2021年大学入学共通テスト

### ■ 文科省 学制百二十年史「共通第一次学力試験の導入」より



共通第一次学力試験は、国公立大学の入学志願者に対し、各大学が実施する試験に先立ち、全国同一期日に同一問題で行われる試験であり、これによって、**高等学校の段階における一般的かつ基礎的な学習の達成程度を問う良質な問題**を確保しつつ、各大学がそれぞれの大学、学部等の特性に応じて行う第二次試験との適切な組合せによって、受験生の能力・適性を多面的・総合的に評価しようとするものであって、一回の学力試験に偏った従来の方法を改め、きめ細かで、丁寧な入試の実現を目指したものであった。(以下略)



### 大学入試センター試験の私立大での利用状況推移 (第1回1990～最終回2020年)

	1990年度	2000年度	2010年度	2015年度	2020年度
私立大学設置数	372	478	597	604	597
センター利用 (私立大学)	16	242	494	523	533
率	4.3%	50.6%	82.7%	86.6%	89.3%
センター試験志願者数	430,542	581,958	553,368	559,132	557,698

センター試験開始以来  
入試での採用校は年々拡大  
90年**4.3%** → 20年**89.3%**

## 2-2. 英語4技能試験導入に向けた議論

### センター試験はこれまでも改善を続けてきました



これまでの  
改善

1997年:コミュニケーション能力を重視した出題範囲設定  
2006年:リスニングの導入  
(ICプレイヤーの活用により課題を克服)

### なぜ民間の英語4技能試験の活用に舵を切ったのか？

#### 文科省ホームページ

『「高大接続改革」に係る質問と回答』には以下のように記載されています

- 2-3-2 公平性・公正性の観点から、複数の資格・検定試験を活用するのではなく、大学入試センターが4技能の共通試験を実施すべきではないでしょうか。

大学入試センターにおける英語の4技能試験の実施は、特にスピーキング(「話す」)について、約50万人の受検生を同時に評価することは困難であると考えています。そのため、英語4技能を総合的に評価するものとして社会的に認知され、既に大学入学者選抜でも活用されている検定試験の活用を一層促進することとしました。

## 2-2. 英語4技能試験導入に向けた議論

### ■議論の経緯

2013年3月産業競争力会議、4月教育再生実行本部で民間試験活用の議論が始まり  
2016年5月大学入学希望者学力評価テスト(仮称)検討・準備グループ第1回会議で  
大学入試センターによる単独実施、民間委託案、民間のみ活用の3案が示された

### ■大学入試センターによる単独実施の際の課題として議論されたこと

①費用	音声認識技術や文字認識技術は大きく向上しており開発のためのコストは当時よりも大きく減少しています
②人員・場所	リスニング同様に会場実施ができるように手立てを考えることが大切です
③評価 海外で通用する 資格試験を採用すべき	複数の試験を導入し試験間比較を図ったことによって日本の大学入試の大きな長所である公平性と適切な評価が失われたと考えています

この間、課題であった実行可能性について  
技術の進歩から大きく進展した

## 2-3. 課題：日本人の英語スピーキング力

日本のTOEFLスピーキング得点は  
**世界最下位166位、17/30点**  
 (トーゴ共和国、コートジボワール共和国と同率)  
 ※ETS2018年時点データから順位を作成

	Country	Region	Speaking		Total	
			Score	Rank	Score	Rank
1	アイルランド	ヨーロッパ	26	1位	101	1位
2	デンマーク	ヨーロッパ	26	1位	98	5位
3	南アフリカ	アフリカ	26	1位	96	10位
4	オーストリア	ヨーロッパ	25	4位	100	2位
5	オランダ	ヨーロッパ	25	4位	99	3位
6	スイス	ヨーロッパ	25	4位	99	3位
7	ベルギー	ヨーロッパ	25	4位	98	5位
8	ドイツ	ヨーロッパ	25	4位	98	5位
9	ルクセンブルク	ヨーロッパ	25	4位	97	9位
10	トリニダードトバゴ	アメリカ	25	4位	96	10位
11	スウェーデン	ヨーロッパ	25	4位	93	20位
155	ベナン	アフリカ	18	155位	68	153位
156	セネガル	アフリカ	18	155位	66	155位
157	ブルキナファソ	アフリカ	18	155位	64	157位
158	ガボン	アフリカ	18	155位	64	157位
159	ラオス	アジア	18	155位	64	157位
160	カーボベルデ	アフリカ	18	155位	63	162位
161	ギニア	アフリカ	18	155位	63	162位
162	ハイチ	アメリカ	18	155位	63	162位
163	マリ	アフリカ	18	155位	63	162位
164	ナイジェリア	アフリカ	18	155位	63	162位
165	コンゴ	アフリカ	18	155位	62	167位
166	日本	アジア	17	166位	71	145位
167	トーゴ	アフリカ	17	166位	64	157位
168	コートジボワール	アフリカ	17	166位	62	167位

### 東京大学合格者のTOEFL iBT 得点

各国数値はTOEFLデータから、東大合格者は東進調べ

	TOTAL	Reading	Listening	Speaking	Writing
満点	120.0	30.0	30.0	30.0	30.0
日本全体	71.0	18.0	18.0	17.0	18.0
東京大学合格者	74.8	22.4	19.1	15.7	17.6
中国	79.0	21.0	19.0	19.0	20.0
韓国	84.0	22.0	21.0	20.0	21.0
フィリピン	89.0	21.0	22.0	23.0	23.0

東大合格者の中でも  
英語学力が高い層の結果  
(TOEIC821.1点)

- ①東大合格者全体の  
TOEIC平均点749.8点  
(L362.6、R387.2)
- ②うち、TOEFL受験者の  
TOEIC平均点:821.1点  
(L419.4、R401.7)  
(共に東進調べ)

東京大学合格者の成績を調べると大学受験で問われない  
英語スピーキングの成績は日本全体を下回っている



### 3. 提言 (詳細)

スピーキングを測る機会がないため、使いこなすような英語力が育たない  
“とにかくスタート”してから改善を重ね、より適した在り方に進化させていく  
課題は山積していますが、実現のための技術は  
日進月歩で進化し続けています  
まずは第一歩を踏み出すことが大切ではないでしょうか

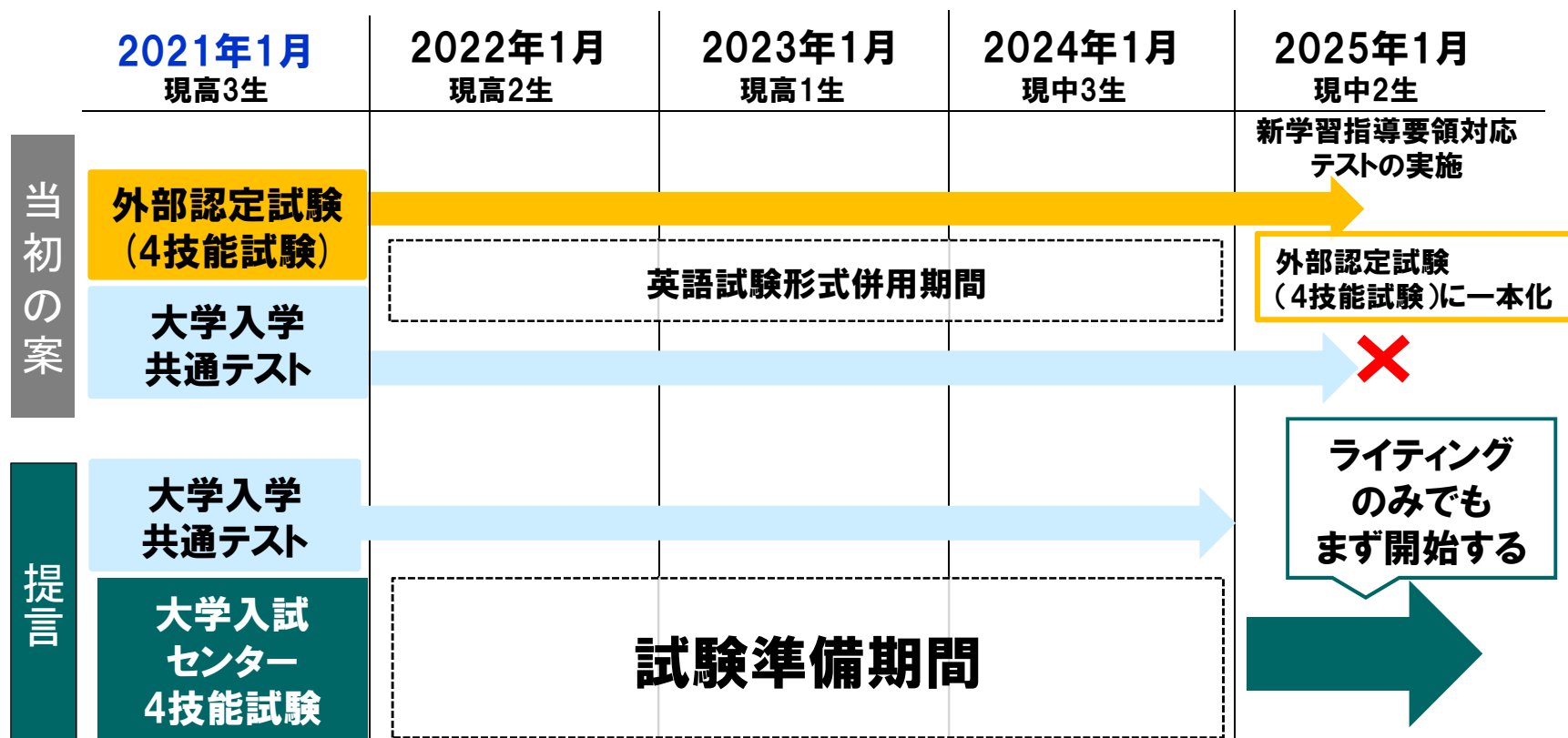


#### 提言

**大学入試センターが英語4技能試験を作成・実施する**

2021年1月に共通テストがスタートしますが  
当初のプランからの変更で、  
世界で活躍する人財を育てるという観点から考えると  
大きく後退してしまったと感じています

### 3. 提言（詳細）



新学習指導要領に対応したテストを実施する予定の  
2025年1月を目標に  
大学入試センターが英語4技能試験を作成・実施することで  
これまでのセンター試験と同様、  
全国で統一の試験を実施していただきたいと考えています

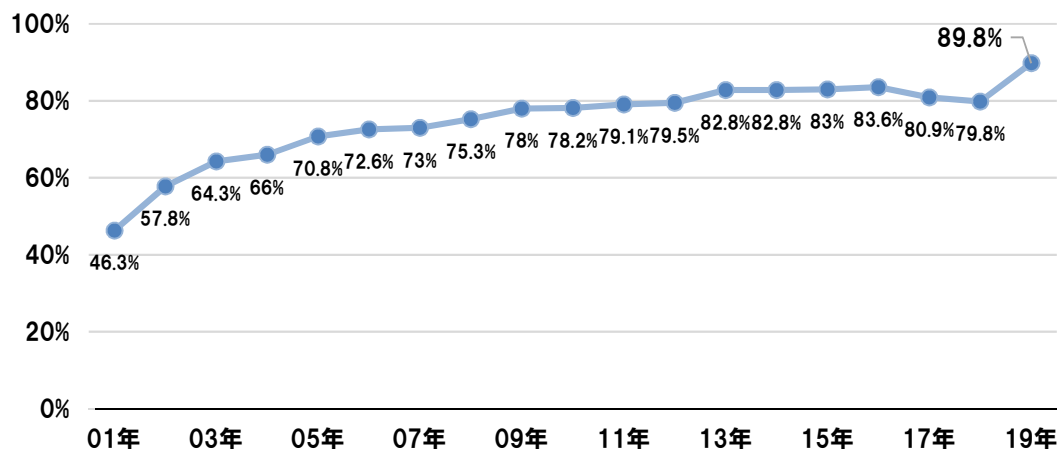
## 4. オンラインの学習環境

### 高校生の90%以上が自分専用のスマホを持っている

	各端末でのインターネット利用率			専用端末or共用端末を持っているか			自分専用端末を持っているか		
	小学生	中学生	高校生	小学生	中学生	高校生	小学生	中学生	高校生
1 スマホ	43.5%	69.0%	92.8%	41.9%	68.3%	92.2%	17.4%	56.4%	91.5%
2 パソコン(ノート+デスクトップ)	22.8%	23.2%	28.9%	20.7%	21.4%	28.1%	1.7%	3.0%	10.6%
3 タブレット	39.1%	32.7%	22.4%	37.4%	31.5%	21.3%	9.3%	11.6%	10.8%

出典：総務省「インターネット接続機器の利用状況」より改変作成(2020年4月発表)

### 2001年-2019年 インターネットの利用率の推移



出典：総務省「通信利用動向調査」より改変作成(令和02.05.29公表)

さらにこの3か月余りで  
オンライン学習に対する意識は  
数年分一足飛びに進んだ  
 と感じています

オンラインで学習する上での格差は極めて縮小しつつある

## 5. まとめ

---

**英語を学ぶ教材・コンテンツは  
世界中に (WEB上に) 無数にある  
生徒には無限の可能性があり意欲さえあれば  
いくらでも学び向上することができます**

**「生徒が将来世界で大活躍するためにどう育てていくか」  
＝「日本が将来世界で  
どのようなポジションを占めようと思うか」  
議論を深めて完璧でなくても  
まず第一歩目を踏み出すことが大切です**